様　式　C－１９、F－１９－１、Z－１９　（共通）

科研費
KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：１５２０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１３８９２

研究課題名（和文）日本とデンマークにおける子どもを主体とした親支援の実践に関する研究

研究課題名（英文）Research on family support practice in Japan and Denmark

研究代表者
佐藤　桃子（Sato, Momoko）

島根大学・学術研究院人間科学系・講師

研究者番号：１０７９２９７１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：社会的養護などの課題を抱える子どもと家庭への支援について、デンマークと日本で主にインタビュー調査を行い、専門職と地域社会がそれぞれ果たす役割を明らかにしてきた。インタビュー調査の対象は、デンマークでファミリー・グループ・カンファレンスを実践している支援者と、日本の子どもの居場所や自立支援の取り組みに携わる支援者である。研究成果は日本子ども虐待防止学会・日本地域福祉学会などで発表を行うとともに、編著、雑誌論文の形で発表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、子ども家庭福祉においては専門職主導で子どもの処遇を決定していた従来のソーシャルワークの考え方が転換しつつあるという背景のもと、子どもの権利を軸にして、専門職権限から家族との協働へいかにシフトするかを提示するものである。デンマークと日本の社会的養護など課題を抱える子どもと家庭への支援において、新たな親支援の仕組みがどのように実践されているか、その中で専門職と地域社会におけるボランタリーな支援はそれぞれどのように位置づけられているか、インタビュー調査から分析を行った。

研究成果の概要（英文）：The study aimed to examine the support for children and families with issues such as social care, and the roles played by professionals and local communities in Denmark and Japan. I conducted interview research both in Japan and Denmark.
The research results were presented at academic conferences of the Japanese society for Prevention of Child Abuse and Neglect etc., as well as in the form of editorial and journal articles.

研究分野：社会福祉学

キーワード：社会的養護　デンマーク　地域福祉　親支援　ファミリーグループカンファレンス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本では現在子どもの貧困等の問題への注目が高まり、社会的養護や子育て支援の仕組みも大きく見直しを求められている。社会的養護下に置かれた子どもの生活の長期的な安定を考慮し、家庭復帰を目指す「家族再統合」が原則であるとされ、家庭での養護を重視した予防的なシステムの構築が求められているが(Helfer eds. 1997:1005)、児童相談所では児童虐待の緊急対応に追われ、家庭への支援が後回しになってしまう現状がある。

児童養護および子育て支援の現場においては、従来の専門職権限が強固なソーシャルワークではなく、家族とのパートナーシップに基づく実践がますます重要とされる(Connolly 1999=2005)。親支援の目的の中核にあるのは子どものニーズの充足である。野澤（1996）は、「親と子がそれぞれにもつ関係性への支援を中核に含む」(野澤 1996:342)ものが子育て支援であるとして、親への養育支援は当然子どもに不可欠なニーズであることを指摘している。社会的養護であれ子育て支援であれ、原則として親と子どもの両方に援助者が関わることが想定される。これは、親子が分離されている場合でも変わらず、この点において本研究では「社会的養護」の概念を従来より広いものと捉えることを狙いとしている。

また、家族への支援は同時に、家族と地域社会との関わりを促すことでもある。専門職の果たす役割と、地域社会においてボランタリーな組織やつながりが果たす役割は、それぞれ社会とともに変化していると考えられる。

２．研究の目的

上述のように、子ども家庭福祉においては専門職主導で子どもの処遇を決定していた従来のソーシャルワークの考え方が転換しつつあるという背景がある。そこで本研究では、子どもの権利を軸にして、専門職権限から家族との協働へシフトしているデンマークのシステムの例を取り上げる。デンマークでは、専門職の決定を最重要視してきた時代を経て、現在では当事者である子どもやその家族が意思決定過程に参加する実践など、ソーシャルワークの方向が大きく転換している。

本研究では、デンマークと日本の社会的養護など課題を抱える子どもと家庭への支援において、新たな親支援の仕組みがどのように実践されているか、その中で専門職と地域社会におけるボランタリーな支援はそれぞれどのように位置づけられているかを分析することを目的としている。本研究の目的は、具体的には以下の２点である。

（１）家族や子ども本人を意思決定過程に関与させる取り組みに焦点をあてる。特に、子ども保護の局面や家族再統合の決定において、拡大家族を意思決定過程に参画させるファミリー・グループ・カンファレンス(以下 FGC と表記)がデンマークで拡がっていることを踏まえ、新たな家族支援の枠組みにおいて専門職はどのように位置づけられ、子ども本人と親がいかに意思決定過程に関与するかを明らかにする。

（２）「地域の中の家族の中の子どもを支援する」という視点から、子ども家庭福祉の実践において地域社会のさまざまなアクター（拡大家族、学校、保育所、近所の友人など）が果たす役割を検証する。

３．研究の方法

（１）デンマーク国内と北欧諸国でも実践が拡がる FGC とは、子ども保護の局面や家族再統合の決定において、拡大家族を意思決定過程に参画させる仕組みで(Connolly 1999=2005)、子ども虐待という家族とワーカーが対立しがちな領域において、問題解決や決定権を当事

者に委ね、家族による養育、家族再統合を目指して当事者である家族を参画させることが明確に目標とされている。

本研究では、2017 年度に 6 カ月間デンマーク（ロスキレ大学）に滞在し、FGC 実践に携わるソーシャルワーカー、デンマークの FGC 実践のパイロット・プロジェクトを始めた研究者などからのヒアリングを行った。また、Horsens 市、Esbjerg 市などで現在コーディネーターとして支援に携わる実践者に対してインタビュー調査を行った。

（２）滋賀県内の子ども食堂や社会的養護の子どもの自立支援の実践について、滋賀県社会福祉協議会からデータの提供を受け、子どもの居場所として地域社会が果たす役割について考察した。特に、社会的養護の子どもを支える「仕事体験」の事業について、事業に携わる施設職員、受け入れ企業、社会福祉協議会のコーディネーターを対象にインタビュー調査を行った。

４．研究成果

（１）デンマークにおける家族への支援の新たな枠組み

デンマークの FGC 実践において家族の支援に主に関わるのは、ソーシャルワーカーから依頼を受ける「コーディネーター（samordner）」である。本研究では 9 名のコーディネーターを対象にインタビュー調査を行い、コーディネーターの役割や専門性等を考察した。

この研究成果については、「デンマークの社会的養護における「家族」の位置づけ」（2017 年日本子ども虐待防止学会）、「デンマークのファミリー・グループ・カンファレンス実践より―家族とネットワークのエンパワメントとは」（2018 年日本子ども虐待防止学会）などでの口頭発表を行ったほか、デンマークの社会的養護の仕組みについて『世界の社会福祉』に執筆した。

（２）地域社会が果たす役割

滋賀県における子ども食堂調査や、社会的養護の子どもたちの自立支援の取り組みについて、論文「地域社会とともに支える社会的養護の子どもの自立」が『地域福祉研究』に、「地域への架け橋―滋賀県における社会的養護の子どもの支援」が『滋賀社会福祉研究』に掲載された。滋賀県の子どもの居場所づくりに関しては編著『地域子どもの架け橋づくり滋賀発子どもの笑顔はぐくみプロジェクトがつなぐ地域のえにし』が出版された。

＜参考文献＞

Connolly, Marie and Margaret McKenzie, 1999, Effective Participatory Practice: Family Group Conferencing in Child Protection. （＝髙橋重宏監訳，2005，『ファミリー・グループ・カンファレンス』有斐閣.）

Helfer, Mary Edna, Kempe Ruth S. and Krugman, Richard D. eds., 1997, The Battered Child, University of Chicago Press.（=2003，社会福祉法人子どもの虐待防止センター監修，坂井聖二監訳，『虐待された子ども―ザ・バタード・チャイルド』明石書店.）

野澤正子，1996,「子育て支援概念と保育所保育の方法技術－『措置保育』から『子育て支援保育』への転換」岩田正美監修，山縣文治編，2010，『リーディングス日本の社会福祉 8　子ども家庭福祉』日本図書センター.

右田紀久恵（2005）『自治型地域福祉の理論』ミネルヴァ書房

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 佐藤桃子	４．巻 84
２．論文標題 "家族"の再生をめざす : デンマークにおける子育て支援	５．発行年 2018年
３．雑誌名 世界の児童と母性	６．最初と最後の頁 59,63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

１．著者名 佐藤桃子	４．巻 108
２．論文標題 デンマークにおける「子どもの権利」の発展と子ども家庭福祉システムの変化	５．発行年 2017年
３．雑誌名 都市問題	６．最初と最後の頁 76-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

１．著者名 佐藤桃子	４．巻 22
２．論文標題 地域への架け橋―滋賀県における社会的養護の子どもの支援	５．発行年 2020年
３．雑誌名 滋賀社会福祉研究	６．最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 佐藤桃子
２．発表標題 デンマークにおけるファミリー・グループ・カンファレンス（FGC）の拡がりについて
３．学会等名 日本地域福祉学会　第32回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤桃子
２．発表標題 デンマークのファミリー・グループ・カンファレンス実践より‐家族とネットワークのエンパワメントとは
３．学会等名 日本子ども虐待防止学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤桃子、久保樹里、永野咲、村上靖彦
２．発表標題 社会的養護における当事者参画―海外の取り組みから―
３．学会等名 日本子ども虐待防止学会　公募シンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤桃子
２．発表標題 子どもを地域で支える－社会的養護の子どもたちのリービング・ケア
３．学会等名 日仏哲学会　シンポジウム発表
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤桃子
２．発表標題 デンマークの社会的養護における「家族」の位置付け
３．学会等名 日本子ども虐待防止学会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計4件

1．著者名	4．発行年
上野谷加代子・松端克文・永田祐　編	2019年
2．出版社	5．総ページ数
ミネルヴァ書房	180
3．書名	
新版よくわかる地域福祉	

1．著者名	4．発行年
斉藤弥生、石黒暢　編	2019年
2．出版社	5．総ページ数
旬報社	399
3．書名	
新　世界の社会福祉　３北欧	

1．著者名	4．発行年
佐藤桃子　編、谷口郁美・永田祐　監修	2020年
2．出版社	5．総ページ数
全国コミュニティライフサポートセンター	147
3．書名	
子どもと地域の架け橋づくり　滋賀発子どもの笑顔はぐくみプロジェクトがつなぐ地域のえにし	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考